



弔慰金・見舞金の緊急

第3章

いましてすぐ被災者に現金を！



被災地に現金を運び

震災で死亡・行方不明となられた被災者の遺族・親族に速やかに弔慰金と見舞金を贈る

D A T A

規模 (金額・リーチ)	8億6645万円 (2012年3月31日時点)
期間	2011年3月29日の緊急記者会見で実施発表。4月4日に石巻市から配付開始。2012年3月30日受付終了
場所	死亡者・行方不明者を確認できた84自治体の全てで実施

プロジェクト概要

〈ニーズ〉

ご家族を亡くされた被災者の方にいち早く現金を渡す。



〈支援〉

ご遺族またはご親族の代表者に死者、行方不明者1人当たり各5万円の弔慰金、または見舞金を贈る。



結果

配付人数:
17329名
18940名
 (警察庁発表の東日本大震災による
 死者・行方不明者)
充足率:91.5%
 (2012年3月31日時点)

日本財団は2011年3月29日に緊急記者会見を開き、東日本大震災による死者・行方不明者の家族に対して一人当たり5万円の弔慰金・見舞金を贈ることなどを盛り込んだ緊急支援を実施することを発表した。

会長の笹川陽平は「2500カ所にも及ぶ避難所で暮らしている人たちに可能な限り具体的な声を届けたいと考えた。過酷な暮らしを続ける人たちへの支援を一日でも早く始めるのが民間の責務。これが緊急支援の第1弾だ」と述べた。

明日の10万円より今日の5万円

理事長の尾形武寿は3月26日早朝に笹川からの電話を受けた。

会長は「東京大空襲の焼け野原を母と二人でさまよった時、現金がなく食べ物が入らなくなった。幼少でただただ心細かった」と自らの体験を語った。そして、「阪神・

日本財団 The Nippon Foundation ボランティア



配付

淡路大震災の時、ある金融機関が封筒に1000円分のコインを入れ被災者に配った。これは大変役に立ったと好評であった」と、現金を被災者に手渡すことを検討するように指示をした。

尾形を中心として、週明けの28日に緊急会議を開催。「現金をどのように被災者に渡すのか」「悪質な人間が来た時にどう対処するか」など議論になったが、「明日の10万円よりも今日の5万円の方が被災者にとっては必要。被災自治体には負担や迷惑がかからないように日本財団はじめポートレース業界挙げて実行しよう」という結論を得て、弔慰金・見舞金を支給することが決定。翌29日には支給について被災者の方たちに周知するため、緊急記者会見を開催した。

日本財団が単独で速やかに行動

この支給事業を外部から見たときに透明性を確保し、公平性が保て、安全性が担

保できるかが課題であった。透明性と安全性には地元行政が保持する名簿を入手し、名簿に応じて支給すれば問題ない。課題は緊急時なので申請者の身分確認や添付書類をいかに最小限に留めることができたのであった。公平性の担保は、時間をかけて支給を継続することにより後日に公平性を調整することで可能であると判断した。

すぐに実行に移すべく、尾形は3月31日から被災自治体を訪問し、支給への説明にあたった。

石巻の亀山紘市長と面談したが、最も被害の大きい石巻の職員は3分の1近くが死亡・行方不明で、協力要請は難しい状況。そこで、日本財団が全責任を持って実行することを約束し、死者・行方不明者の名簿の提供、被災者への周知活動、そして東京から派遣する職員は当然地元事情に疎いため、被災自治体からの職員を1人提供してほしい旨も伝え、実行することとなった。

また、気仙沼市では国からの義援金に乗せて支給したい旨の要請があったが、

国からの資金がいつになるのが見えない状況もあり、日本財団の責任のもと単独で速やかに行うことを伝え理解を得た。

大金の準備にも苦勞

実際、大量の現金を用意するのにも大変な苦勞があった。

複数の取引先金融機関に相談するが、被災地の支店自体が被災し、支店業務自体も混乱していることから、現地支店で現



大量の現金をスーツケースに入れて、ガードマンなしで日本財団職員が運んだ。

第3章 弔慰金・見舞金の緊急配付

金を引き出すことは断念。日本財団と取引のある銀行に現金を用意してもらうことになった。

しかし、現金を財団まで届けてもらえるわけもない。そこで、「億」という現金を大型スーツケースに入れて、警備員もつけずに若手職員の護衛のみで運んだ。

この作業を3日に分けて行った。金融機関がすぐに全額を現金で用意できないという事情もあるが、一人5万円の封筒詰め作業が一気に終わらなかったためだ。ここでは、銀行出身の嘱託職員などが活躍してくれた。

そして、当初は4月7日からの支給開始で調整していたが、繰り上げて4日に石巻から実施することとなった。4月2日時点

の新聞報道では、石巻市の死亡者数2341人、行方不明者数2698人であった。単純計算で5000人×5万円とすれば最大2億5000万円の現金が必要となる。結局、一人が5万円を数え、もう一人が確認して封入し、第1弾として封筒5000セットを用意した。

前日まで議論が続いた配付方法

4月3日、2億5000万円の現金を段ボールに入れて、チャーターしたバスの座席の上にガードマンなしで積み込んだ。それに同乗した20余人の職員たちは、大金を所持することから緊張した面持ちで石巻に入った。

そして、対象者に速やかに、しかも正確に配れるかも課題であった。死亡者のデータは、県警が公表しているものの、居住地までは特定できない。宮城県下の全データを石巻に持ち込んだとしても、照合作業は非常に手間を取る。しかも行方不明者は、そもそも正確なデータがない。日々更新されるデータは、持ち込んだリストに反映しきれないタイムラグの問題もある。さらに、受け取りに来る被災者の多くは家財を流されており、本人確認ができないケースも相当数あるだろうし、続柄や親族の代表であることの確認も難しいなど、前日の現地での議論は深夜にまで及んだ。

しかし、こうした苦労と試行錯誤を重ねた結果、4月4日からの3日間で、石巻市

弔慰金・見舞金の配付現場 二重払いを返却

走りながら考えたミッションだけに、当初はトラブルも心配されたが、問題はまったく発生しなかった。周知活動も不十分かと思われたが、石巻での配付初日には長蛇の列ができ、配付開始時間を繰り上げたほどであった。

実際、何も持ち出すことができなかったため、照合のための身分証明書類を提示できない被災者の方もいた。しかし、そういった方こそ受けた被害が大きく、当然現金も持ち出せずに墓前に供える花も買えない、まさに配付の対象者である。ある方は、身分を証明するものが「何もありません」と言う。日本財団職員がふと足元を見ると、靴に片仮名



で名前が書いてある。本来は靴の名前が身分を証明するはずがないし、公的機関の審査であれば絶対に認められない。でも、津波に追われながら何も持ち出せず、身につけていたものがすべての人もいる。そのような方にも今回は配付し

た。そして、その状況を悪用した人は発覚していない。

オンライン処理ができないため、二重払いも発生した。違う配付所でそれぞれ弔慰金を受け取った遺族が、家で二重に受け取ったことに気付いたのだ。しかし、その方は5万円を返却するために、がれきの道をわざわざ引き返してきてくれたのだ。

笹川自身が率先し、日本財団が全責任を負うことで、迅速な配付ができた。しかし配付現場を思い返せば、このミッションを支えたのは日本人の清らかな心だったと思わざるを得ない。



役所、湊小学校、女川町役場などでの配付は約3100件、支給額は1億5000万円を超えた。

91.5%の方に現金が届けられた

4～5月には、気仙沼、陸前高田、釜石、大船渡、花巻各市など、多くの避難所などでも弔慰金・見舞金を配付。

安全管理に関してはALSOK総合警備

保障株式会社に業務を請け負っていただき、夜間の現金の保管も被災地の地方銀行の協力が得られた。また、支給業務に関しては、ボートレース施行自治体や関連団体からの職員派遣がとて大きな力となった。

6月末までに、死亡者・行方不明者を確認できた84自治体のすべてで実施し、合計1万4861件で7億4305万円を遺族に届けた。

その後も、日本財団復興支援コールセンターなどで手続きを続行し、2012年3月末まで受け付けを続けた。その結果、警察庁発表の東日本大震災による死者・行方不明者1万8940名のうち1万7329件に弔慰金・見舞金を配付することができた。

ご遺族に5万円をお贈りする事業であるが、被災者の方々に支えられてきた支援ではないかと思う。

皆様のご厚意に感謝です！
1日も早く、元の、そして新しい宮城になるよう頑張ります！！
ありがとうございました！！
(宮城県松島町 男性)

このたびの震災に対して、お心遣いありがとうございます。
まだまだ心は晴れませんが、多くの方々の優しい援助で少しずつ前を向いていけるようになれると思っています。
(宮城県 女性)

日本財団に届いた声

ROADプロジェクトの1年間の活動中に寄せられた
被災者からのたくさんのお手紙や感謝の声。
その一部をご紹介します。

今回の震災におきまして、私の郷里であります宮城県南三陸町にてさまざまなご支援を頂き感謝申し上げます。とりわけ損傷した漁船の修理は復興を後押しする一歩となりますし、避難所となっておりますホテル観洋においての海水淡水化装置の設置は、避難者およびホテル従業員の皆さまにとって格段の生活利便性の向上が図られ、非常にありがたい次第です。

津波による壊滅的な被害を受けました当町ではありますが、海と付き合いながらの復興は不可欠であり、今回のご支援は、漁業、観光業に大きく貢献するものと信じております。

一町民として、今回のご支援に対し厚く御礼申し上げます。
(2011年6月 シンガポール 男性)

自宅にて介護中、地震により呼吸器が破損・停電のため5～6分で死亡。悔いは残りましたが弔慰金で線香とお花をしばらくの間買わせていただきます。
年金生活なので、花まではなかなか手が届かないでいました。ありがたくお受けいたします。
(2011年5月 福島県福島市 男性)

ご本人は耳が遠いので、代理のご親族からのお電話でした。
「本当にありがとうございました」
(2011年5月 埼玉県ふじみ市 男性)

弔慰金・見舞金の受領者の方々から、「何の関係もないのに支援を頂きありがたい」旨のお話を頂きましたことをご知らせいたします。
(青森県某被災市町村職員 男性)

弔慰金頂けるとのこと誠にありがとうございます。
何一つ持ち出さず、妻ともども家屋流失してしまいました。妻のとむらいのために使わせていただきます。
本当にありがとうございます。乱筆にて失礼いたします。
(宮城県 女性)

私の母が、今でも行方不明だということが本当に信じられず、3月頃は気合で探していたのですが、段々と悲しみと落胆で元気をなくしていました。

息子から日本財団さまの事を聞き、たくさんの人たちが私たち被災者のことを懸命に考えてくださっているんだなあと同時に、元気も少し出てきた次第です。

もう二度とこの様な災害がありませんように、心から祈るばかりです。

(宮城県松島町 女性)

3月11日に発生した東日本大震災により、岩手県釜石市にいる父を亡くしました。偶然にも当日朝に、3月15日の父の80歳の誕生日を祝うカードを郵便ポストに入れたばかりでしたが、ついにそのカードは父に届くことはありませんでした。津波から16日後に父は遺体で発見されましたが、私に会えてホッとしたような寝顔でした。

このたび貴財団から弔慰金を頂けるとのことで、必要書類を送付させていただきます。

返信用の封筒に切手を貼っていただき、ありがとうございました。切手一枚のささやかなことかもしれませんが、落ち込んでいるときにはこうした細やかな配慮が、本当にうれしく、ありがたく感じるものです。

父が亡くなり、実家は津波で全壊となり何も残っていませんが、文部科学省には岩手県沿岸部に震災孤児のために小・中一貫校をつくる計画があるとのことで、教育関係者の一人として私も故郷の復興に尽力したいと考えております。

(2011年5月 愛知県名古屋市 男性)

今回の大津波で母を失いましたが、翌日の午前中に発見され、火葬と葬儀を執り行うことができたことは幸いでした。

母を失って3カ月が経ち、いまだに受け入れられないでおりますが、このように手を差しのべてくれる方々がおられるということが心に深くしみております。

このお見舞金は今後の母の供養に充てさせていただきます。本当にありがとうございました。

(2011年6月 女性)



日本財団に届いた声

お見舞い金ありがとうございました。

同じ津波で両親とともに流され、その後健康を害した私には大変ありがたい支援です。

本当にありがとうございました。

(2011年6月 宮城県塩竈市 女性)



このたびの大震災で亡くなりました亡姉に対して心温まるお言葉やお悔やみの金子を頂き厚くお礼を申し上げます。7月1日にささやかながら供養の会を開くべく考えております。

本当にお気遣いありがとうございました。

(2011年6月 福島県 女性)

弔慰金ありがとうございます。

息子に先立たれてしまい毎日悲しい思いをしていました。日本財団さんの温かいご厚情に心からお礼申し上げます。

(2011年7月 岩手県 ご夫婦)

このたびはたくさんのお見舞金を頂きましてありがとうございました。皆さまのご援助が私の毎日の生活を支えてくださっています。

(2011年5月 宮城県 女性)

私事で何ですが、私も今回の震災で被災し、家も全壊、車も漁業施設および備品もすべて流失いたしました。

日本財団さまのような慈善団体のご支援は、亡き父を心より弔う糧とさせていただきます、ありがとうございます。

(2011年6月 宮城県 女性)

